



全国学力・学習状況調査の結果

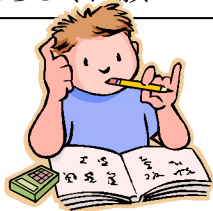
全国学力・学習状況調査の重要性と本校の取り組み

この調査は、平成19年度から全国一斉に6年生を対象に実施されています。5年生で行う基礎・基本定着状況調査と合わせて、本校の教育実践の成果や課題を明らかにするとともに児童の学習や生活に対する意識調査、家庭での過ごし方を把握するものです。この結果を分析、検証し、今後の教育活動を展開していきたいと考えております。

今回の調査を通して、定着しにくい領域や改善点が明らかになりました。繰り返し学習やグループ学習などを積極的に取り入れ、よりきめ細やかで効果的な指導法の工夫改善に努めていきます。すべての児童が「できた」「分かった」と感じることができるよう、教職員一同、日々の実践を充実していきます。今後とも、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

調査方法等

- 日時 平成21年4月21日(火)
- 対象 第6学年
- 方法 テスト方式
- 教科 国語科・算数科
- 出題範囲 小学校1～5年生
- 分析・考察 安東小教務部・6年担任

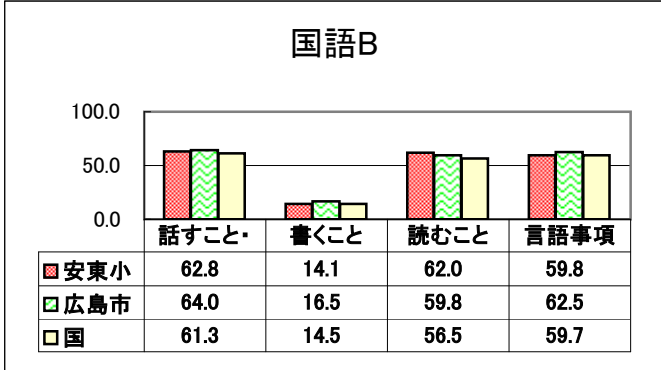
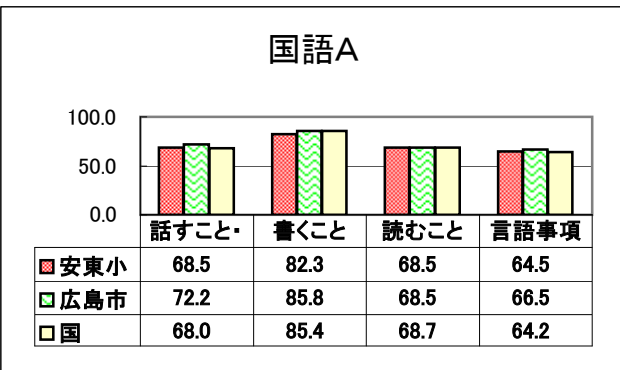
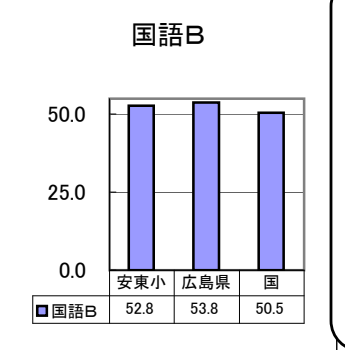
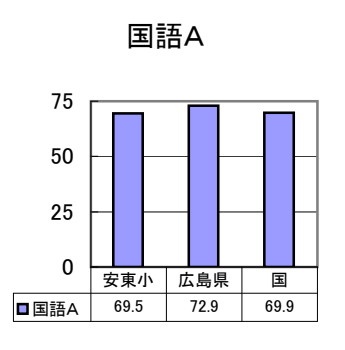


調査結果について

今年度の全国学力・学習状況調査(4月21日実施)の結果について、ご報告致します。この学力・学習状況調査では、A問題(基本的な問題)B問題(応用問題)からなっています。国語科では平均正答率が国語Aで69.5%で広島県の72.9%、国の69.9%よりもやや低い結果となりました。国語Bについては、52.8%で広島県よりもやや低い結果となりました。領域別に見てみると、国語Aの「話すこと、聞くこと」「言語事項」については、全国平均よりもやや上回っており、本校の児童は表現力の基礎となる力がある程度ついていることがわかりました。しかし、長文を読んだり、その内容を的確に読み取ったりすることに課題があります。算数においては、平均正答率が算数Aで74.9%で広島県の81.3%、国の78.7%と比べると低い結果となりました。算数Bについては、52.8%で国よりもやや低い結果となりました。領域別に見ると「図形」のB問題が全国平均をやや上回っています。4つの領域の中では定着率が高いことがわかりました。逆に「数と計算」「数量計算」においては、正答率が低く、問題形式では記述式の問題に課題があります。具体的には、2つのものを比較して説明したり、根拠となる考えを説明したりすることが苦手です。

国語Aでは、全国平均よりやや低い結果でした。国語Bでは、全国平均よりも高い結果となりました。

課題として、「内容を的確に読み取る」「目的や意図に応じて段落の内容をとらえる」があげられます。課題に向けて、継続的、日常的に国語辞典を活用したり、帯時間を活用し、読解力を育てる問題に取り組んだりします。また、授業において、自分の思いや考えを書いたりするなどの場面を設定していきます。



全国学力・学習状況調査(算数)

算数科の平均正答率は総合的に見ると、全国平均よりやや低い結果となっています。課題としては「筋道を立てて考え、考えたことを記述する」があげられます。課題解決に向けて、基礎・基本の反復練習を徹底したり、問題解決の過程で、根拠となる考えを一人ひとりが考える時間を確保することを行っていききたいと思います。

